

自由を使いこなすには？

加藤 研 吾



奨励者紹介（かとう・けんご）
北星学園大学 財務課

あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。

（ヨハネによる福音書八章三三節）

はじめに

皆さん、こんにちは。財務課の加藤と申します。はじめに、少し自己紹介をします。僕は生まれも育ちも厚別区で、この近所にある厚別南中学校を卒業し、厚別区の東にある札幌啓成高校を卒業後、二〇一七年に北星学園大学心理・応用コミュニケーション学科に入学しました。そして、二〇二一年から北星学園大学財務課に勤務しております。

本日は、「自由を使いこなすには？」というテーマのもと、北星学園大学との出会い、学生時代の思い出、そして北星学園大学で学んだことの三つについてお話していきたいと思っています。

北星学園大学との出会い

まず、北星学園大学との出会いについてです。僕が北星のことを初めて知ったのは、親とともに来た星学祭でした。当時は小学生だったので、学校全体がとて大きく見えまし

た。色々な模擬店を回った後、ゲストで来ていたお笑い芸人のムーディー勝山を見たことを今でも覚えています。

時は流れますが、北星に入ろうと思ったのは高校三年生の時でした。僕は元々、人の心に興味があり、心理学を学べる大学を探していました。そんな時、当時通っていた塾の先生が短大の英文学科に在籍していて、「北星は自由に学べて自分の好きなことができる」とすすめてくれました。僕はその言葉に非常に惹かれて、せっかく四年間学費を支払うなら、自分の好きなことをできる場所に行こうと思いい、北星を受験しました。

数ある学科の中で、心コミを選んだ理由は、心理学を学べるということと、「心理・応用コミュニケーション学科」という日本に一つしかないであろう学科名に興味を持ったからです。

学生時代の思い出

次に、学生時代の思い出についてです。学生時代の思い出は沢山あるのですが、その中でも印象に残っていることをいくつかお話ししていきます。

一つ目は、新入生歓迎会です。心コミでは、入学後に「新入生歓迎会」というイベントが開かれます。このイベントは新入生同士の交流を図るとともに、カリキュラムなどの説明を行うことを目的としています。この新入生歓迎会で、残念ながら僕は友達が一人もできず、とても不安になりました。そのような経験から、自分と同じような人が減ってほしいと思い新入生歓迎会を企画する「オリター」という組織に入りました。オリターでは実質二年間活動しました。一年目は全体の司会を務め、二年目は裏方で全体の動きを把握する役割でした。このオリターに入ったことで、心コミの先生や同級生との交流が増え、大学生活が楽しくなってきました。

先ほども述べたように、新入生歓迎会では、新入生同士の交流を図るとともに、カリキュラムなど、大学のことを知ってもらうことを目的としています。そのため、オリターでの活動を通して、大学のことやカリキュラムに対しての理解が深まりました。この時の経験は今でも役に立っています。

二つ目は、講義の面白さに衝撃を受けたことです。僕は高校生まで卓球一筋で、勉強をしていても面白いと思つたことはほとんどありませんでした。時には赤点を取って補習を受けることもありました。大学の講義では答えのない問いについて考えなければならず、自分自身の頭で答えを出すことが求められました。例えば、紛争をなくすために日本がで

きることや、円滑なコミュニケーションに必要なことなどです。学ぶことは一方的に教わるだけではなく、自分の頭で考え発信していく双方向的なものだと入学後に初めて知りました。それからは、勉強の面白さに気付き、自分から積極的に学べるようになりました。入学前は心理学にしか興味がなかったのですが、他学科の科目にも興味を持ち、様々な分野の講義を履修しました。

三つ目は、自由な人たちが沢山いるということです。日本全国の鉄道を制覇した人、自転車で東日本を一周した人、そして海外の大学へ編入した人などがいました。彼らは、個性的で好奇心も旺盛で、面白い話を沢山聞かせてくれました。机に向かうことが多かった僕は、彼らの話から良い刺激を何度ももらいました。勉強の面白さだけでなく、自分の知らない世界に飛び込むことの面白さも教えてもらいました。特に、自転車で東日本を一周した友人は、卒業してからも日本全国を自転車で走り回っているのです、今でも刺激をもらっています。

北星は学生だけではなく、先生方も自由で個性的です。映画からアメリカの文化を解説してくれる先生や、大教室でも絶対にマイクを使わない先生などがいらっしゃいました。そのような先生方の講義は、今でも印象に残っており、もう一度受講してみたいと思うことがあります。

僕が最も思い出に残っているのは、卒業論文に取り組んだ三年生と四年生の二年間です。心コミの在学生や卒業生なら一度は聞いたことがあるであろう「後藤ゼミ」に僕は所属していました。僕はこの後藤ゼミで「日本人は縦書きと横書きをどのように記憶しているのか」について研究していました。小説は縦書きで、レポートは横書きというように、日本語には二つの書き方が存在しています。なぜ、そのような非効率的な処理を、日本人は苦に感じずに無意識のうちにできているのだらうと思ったことがきっかけでした。

そのような日常の気付きを研究にするには、知識が必要でした。この研究をするために、これまで学んできたことを改めて見直してみたり、過去の研究を長い時間をかけて調べたりしていきました。他大学から何度も論文や書籍を取り寄せては、それを読み込むことを繰り返しました。そのため、北星の図書館にはすぐくお世話になりました。

基本的には一人で考えることが多かったのですが、時には自分だけでは解決できない問題があり、先生や先輩に相談に乗っていただくこともありました。また、幸いなことに、周りには研究熱心な友達もいたので、その友達と熱い議論をしたこともありました。A館七階には心コミ部屋と呼ばれる実習室があるのですが、この実習室の閉室時間まで先輩や

友達と話したことは良い思い出です。

自分のやりたいことを見つけ、それに没頭できるというのは、恵まれた環境にいたのだと今になって思います。大変なことの方が多かったですが、毎日新しい発見があり、非常に楽しかったです。

正直なところ、大学時代の勉強が役に立っているかと聞かれると、全てが今に繋がっているわけではないと思います。縦書きと横書きの記憶の仕組みを使って何かをしたことはないですし、心理学の実験方法を活用したことは今のところありません。しかし、新しいことを知る楽しさや、誰かと議論して答えのない問題を解決していく大切さに気付けたことは、今の自分の考え方や価値観に大きな影響を与えてくれています。

よく、「大学は人生の夏休み」と呼ばれますが、それは自由に遊び回れるという意味ではなく、自由に学べるという意味だと思います。

このように、充実した大学生活を送ってきましたが、最後の一年間は新型コロナウイルスの影響でほとんど学校へ行けませんでした。気軽に外へ出られない日々が続く、研究の計画も白紙になり卒業論文の執筆がストップしてしまいました。このまま自分は卒業出来ないのではないか、これからの進路はどうしたら良いのかなど、悩む日々が続きました。

それに加えて、友達や先生方に直接会えないというのはやはり寂しかったです。

しかし、オンラインという環境に慣れるにつれて、時間に縛られずに授業を受けられたり、普段会えない人と交流できたりして、徐々にはではありませんが、新しい大学生活の楽しさを感じることができるようになっていました。最後の最後までオンラインの一年間でしたが、卒業式だけは対面で開催され、久しぶりに友達や先生方に会えたことがとても嬉しかったです。

大学在学中は、新型コロナウイルスの流行だけでなく、胆振東部地震による停電もありました。どんな状況でも、大学生活を送れたのは多くの職員の方々が見えないところで支援してくださったおかげだと、自分が職員になってから気付きました。

今もまだ、コロナによって様々な活動が制限されています。それでも、学生の皆さんが安心して大学生活を送れるように、今度は自分が支援できることを考えていきたいです。

北星学園大学で学んだこと

最後に、北星学園大学で学んだことについてです。僕が北星で学んだことは、「自由を使いこなすには、知識が必要だ」ということです。北星の学生としての四年間、職員として

の二年間を通して、多くの人と関わらせてもらいました。その関わりの中で、自由に研究している人や、自由に仕事をしている人は多くの知識を持っていると学ぶことができました。

本学には「私たち北星学園大学に集う者は、正義と良心に従い、自由に真理を探究し、真理によって自由を得ることを目指します」というミッションステートメントがあります。捉え方は人それぞれですが、僕はこの「真理」という言葉の中には「知識」が含まれていると思います。

高校生の時、塾の先生から聞いた「北星は自由に学べて自分の好きなことができる」という言葉を信じて北星に入学して良かったと今になって思います。

僕はまだ、知識が足りていないので、自由に仕事をするまでには至っていません。でも、今も昔も、僕の近くには知識を与えてくれて、良い方向に導いてくれる人がいます。これから沢山の知識を身に付けて、自由を使いこなせるようになり、少しでも北星学園大学に貢献できるようになりたいと思います。

(二〇二二年一月二日)